

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	22159
課題名	砕石位で消化管下部手術を受ける患者の褥瘡発生予防に向けた取り組み
研究期間	実施許可日～2023年10月31日
研究の対象	2022年4月～2022年12月に当院で手術前に医師からのインフォームド・コンセントや看護師からの術前オリエンテーションで、砕石位（仰向けで両脚を挙上して開脚固定する体位）で消化管手術を行うことの説明を受け同意を得た患者さん
利用する試料・情報の種類	<p>■診療情報（詳細：性別、性別、BMI、手術前の血液データ（総蛋白・アルブミン・ヘモグロビン）、手術時間、手術中の出血量と尿量、手術中の輸血の有無、手術後の褥瘡発生の有無 等）</p> <p><input type="checkbox"/>手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名： ）</p> <p><input type="checkbox"/>血液</p> <p><input type="checkbox"/>その他（ ）</p>
試料・情報の管理について責任を有する者	旭川医科大学 学長 西川 祐司
研究の意義、目的	当院において、砕石位で消化管下部の手術を受けた患者さんに仙骨部に褥瘡が生じ、手術後に褥瘡部の痛みで鎮痛剤を使用したり、安楽な体位をとることができない患者さんがいました。褥瘡は、手術後の早期離床の妨げや術後合併症の発症など回復遅延の要因となりえます。そのため、体圧分散寝具の見直しを行うため体圧測定による検証や仙骨部の摩擦とズレを緩和する皮膚保護パッドの貼付など褥瘡予防対策に取り組みました。今回、砕石位で消化管下部手術を受けた患者さんに対する褥瘡予防対策の取り組みの有有用性を評価することを目的に研究を行います。
研究の方法	褥瘡が生じやすい仙骨部にあたる体圧分散寝具のサイズや素材、形状を変更し、砕石位体位固定前に皮膚保護パッドを貼付するなど褥瘡予防対策を取り組んだ後に手術を行った患者さんの褥瘡発生の有無を電子カルテから調べます。また、従来の体位固定方法によって褥瘡が生じた患者さんと生じなかった患者さんを手術記録や電子カルテから比較検討します。
お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

	<p>照会先</p> <p>研究責任者：看護師 田中 誠子</p> <p>所 属：〒078-8510 旭川市緑が丘東 2 条 1 丁目 1-1</p> <p>旭川医科大学病院 看護部 手術部ナースステーション</p> <p>電話番号：0166-69-3501(直通)</p>
--	---